

■ 巻頭言

「 5年の節目で 」

筑波大学特別支援教育研究センター 左藤敦子

2007年の木の葉が舞う季節に特別支援教育研究センターに赴任し、5年の歳月が過ぎました。5年という年月に特別な意味があるわけでもないのですが、「節目」を意識して、通信の原稿に臨んでいます。

5年前、赴任直後のスタッフ会議で「イニシアティブが…、JICAの協力で…」ということばが飛び交うなかで“えらいとこにきちやったなあ…”と居心地の悪さを感じたことが思い出されます。研究テーマの「聴覚障害」以外のことに目を向ける余裕はなく、他領域の附属特別支援学校には足を運んだこともないという有様の自分にとって、「現職教員研修、研修ニーズ…」 「障害種別を超えた連携…」という議論をしっかり受け止めていたとは、お世辞にもいえない状況でした。学生時分に、初代センター長の齋藤佐和先生に「あなたは、なにがしたいの？」と問われたことが何故か胸に浮かぶ日々でした。

そして、5年の歳月とともに、附属の先生方の意見や考えに触れ、教育実践を目の当たりにする機会がふえる中で、少しずつ「特別支援教育の専門性とはなんだろうか」という疑問が湧いてきました。特に、今年の9月に開催された特殊教育学会でのワークショップは、企画段階から活発な意見が交わされ、私にとって刺激的かつ意義深いものでした。この疑問に対するこたえに未だ到達することはかないませんが、センターに身を置いていたからこそだと感じています。

これからセンターでは、「教材・教具」に焦点をあてて、附属特別支援学校5校の連携のもと教育実践研究が進められようとしています。この研究の展開の中では、新しいことばかりではなく、日々の実践の中で培ってきたことを再考することが重要になるのではないかと思います。附属特別支援学校の多くの先生方と「見出された発見」の共有ができるように、今後も真摯に向きあっていきたいと考えております。



主催セミナー

シリーズ：特別支援教育の展開（3）「障害のある子の超早期段階における教育的支援の在り方 一貫した支援を目指して」は平成 24 年 11 月 10 日（土）、筑波大学東京キャンパス文京校舎 134 教室を会場に開催しました。100 名を超える参加者は、北海道から四国までの保育園、幼稚園、特別支援学校、療育センター、教育委員会等の様々な職種で、超早期教育への興味や関心の高いことを感じました。今回のセミナーは平成 22 年度から 3 年間にわたる附属大塚特別支援学校が主体となった「超早期段階における知的・重複・発達障害児に対する先駆的な教育研究モデル事業（筑波大学）」との共催。この「モデル事業」の報告を中心とするシンポジウムと、宮田広善先生（姫路市総合福祉通園センター所長）によるご講演「我が国の障害乳幼児支援における関連機関連携の展望と課題ーライフスパンの視点からー」で構成したセミナーでした。



シンポジウムでは、本事業の成果報告として、研究担当者と附属特別支援学校連携関係者より、これまでの地域との連携実践および附属特別支援学校間連携の取り組みから、連携的支援に関する現状と課題について話題提供をおこないました。フロアからの活発な意見とともに、最後に筑波大学佐島毅先生からコメントを頂戴し、報告の内容をさらに深めることができました。姫路市総合福祉通園センター所長の宮田広善先生からは、乳幼児

期の発達支援における地域機関の『横の連携』、ライフステージに沿った関係機関間の『縦の連携』と、それらをつなぐ移行支援、連携システムの基盤となる法制度の現状と課題についてのご講演を頂戴しました。医療の立場から障害のある子どもたちへ継続的な支援の経験を元にした先生の先駆的な取り組みの報告は、参加者全員へ大きなインパクトを与えるものでした。



■現職教員研修生の研修日記

北海道真駒内養護学校 佐藤 輝明

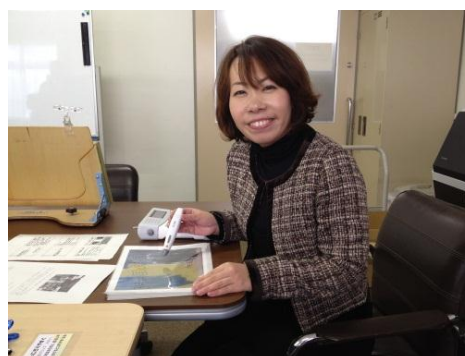
家族や何人もの先生方から体調を崩さないように！と心配されつつ始まった東京生活。初めての梅雨を経験し、猛暑といわれた夏もいつの間にか影をひそめ、寒さを感じる今日この頃です。筑波大学特別支援教育研究センターでの長期研修は多くの方々に支えられていることを実感します。センターの先生方からは附属特別支援学校やセンターでの演習を通して特別支援教育の奥深さと幅広さを学んでいます。筑波大学でのゼミや聴講はどれも魅力的で、先生方から一つでも多くのことを学びたいという思いとともに、学生の研究意欲や知識の高さに自分も頑張らなければと気持ちが高まります。附属桐が丘特別支援学校には国語の授業参観を何度もさせていただきました。また、毎週行われている研究会にも参加させていただいています。研修生の立場で授業参観や研究会に参加できることは客観的に物事を見聞きすることができて、学びの要素が大きいです。今は研究のまとめを主軸にしつつ、研究会に参加したり、特別支援学校や施設見学をしています。今できることは今のうちにしっかりやって、修了後をイメージしつつ、残りわずかとなった研修期間を同期の研修生とともに充実させていきます。



静岡県立静岡北特別支援学校 繁本 千尋

初めて筑波大学特別支援教育研究センターを訪れた日は、桜の花が咲き始めた頃で、温かで晴れやかな気持ちで研修をスタートしたことを覚えています。あれから、8ヶ月。今は鮮やかに色づいた木々の葉も舞い、冬の訪れを感じながら研修に励んでおります。この研修期間は、毎日毎日がとても新鮮で、たくさんの学びを頂ける環境に身を置けていることに大変感謝しております。

教職に就いてから日々目の前の子どもたちと向き合うことに精一杯になっていた私にとって、現職教員研修はこれまでの取り組みを振り返る良い機会となっています。センター教員の先生方のご講義や筑波大学の授業聴講、5附属特別支援学校の見学や実習などを通しては、自身が実践を積み重ねていくことや基本的な知識を身につけること、常に学ぶ志を持ち続ける必要があることを学びました。全国から集まった研修生の先生方と仲間として出会えたことも私の宝となっています。この研修で学んだ一つ一つのことを実践に生かせるよう、残り4ヶ月の研修を充実させ、さらに学び続けていけるよう日々を大切に過ごしていきたいと思っております。



■センターの検査器具一覧

センターでは、附属校関係者へ検査器具の貸し出しを行っています。借用期間については、基本1ヶ月となります。借用方法については、センターへお問い合わせ下さい。

カテゴリー	品名	数	備考
知能検査	WISC-Ⅲ知能検査	4	実施ガイド(DVD)
	WISC-Ⅳ知能検査	4	
	K-ABC 心理・教育アセスメントバッテリー	1	実施ガイド(VTR)
	DN-CAS 認知評価システム	3	手引き書
	WPPSI 知能診断検査	1	手引き書・DVD
	WAIS-Ⅲ 成人知能検査	2	手引き書
発達関係検査	乳幼児分析的発達検査(遠城寺式)	1	手引き書
	PRS LD児・ADHD児のためのスクリーニングテスト	2	手引き書
	LDI LD判断のための調査票	1	手引き書
	KIDS 乳幼児発達スケール 手引き書	1	用紙-T、A、B、C
	PEP-3 自閉症・発達障害児 教育診断検査 [三訂版]	2	
	CARS小児自閉症評定尺度-判定シート付-	1	手引き書
言語関係検査	PVT 絵画語い発達検査	2	記録用紙
	PVT-R 絵画語い発達検査 図版・手引き書	4	記録用紙
	ITPA 言語学習能力診断検査	1	手引き書・事例集
	ことばのいずみ Lプログラム	1	
	小学生の読み書きスクリーニング検査	1	手引き書
視覚障害関係検査	ロービジョン・シュミレーション トライアルセット	3	
	ランドルト環近距離単独視標	1	
	ランドルト環近距離視力表	1	
	単独絵視標	1	
	単独視標	1	
	グレーティング縞視標	1	

